

1 題材 「永（とこしえ）の情景を『デュアルメロディ』で表現しよう」

2 指導観

- 昨今、AIによる作曲機能が発展し、曲を自動で生成できるようになったが、これらは音を紡いで音楽として表現するといった思考過程までも自動化されている部分が多い。人間が表したい思いをもち、試行錯誤しながら音や音楽で具現化するといった、創造性の価値が見直されている。

本題材は、日本の五音音階の特徴に関心をもち、表したい「永」の情景のイメージにふさわしい音楽に近づけるための工夫を重ねながら、創作に必要な五線譜の読譜や記譜の技能を身につけることを通して、自己の生活を音楽で豊かにできるような美的情操を培うことをねらいとしている。学習内容としては、和楽器や地声的発生の音色のよさ、日本の五音音階の響き、旋律の反復・変化・対照、表したい「永」の情景のイメージにふさわしい旋律の重なり合いなどがある。五音音階とは、1オクターブ内に五つの音が含まれる音階のことで、アジアを中心に世界に広く分布しているものである。本題材で扱う都節音階は箏曲などで、律音階は雅楽などで用いられることが多く、各々違った日本特有の響きを感じ取れる。本題材を学習することは、音楽と自己のイメージや感情との関わりに対する感性を働かせ、グループでの協働の必然性を感じ、共に感性を磨き合いながらイメージにふさわしい音楽を創作していくことにつながるの、大変意義深い。

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本題材の指導にあたっては、各グループの「永」の情景を表す音楽のイメージにふさわしい音楽創作について追求させたい。そのためにまず、京都の郷土の音楽のよさを味わわせる。ここでは、生徒それぞれの興味・関心に応じた順に音楽の特徴を知覚・感受させるために、タブレット端末から3曲の映像を自由に鑑賞できるように設定し、共通点や固有点を問う。次に、表したい「永」のイメージをもたせる。ここでは、表したいイメージと思いや意図を具体的に関わらせるために、見学旅行中に訪れた場所の中で最も印象深かった所について、その理由を「音楽を表す言葉」を使って書くよう促す。さらに、日本の五音音階と反復・変化・対照を使って、デュアルメロディをつくらせる。ここでは、二つの旋律が同時に演奏されているにも関わらず、きれいに重なり合っている根拠を感じ取らせるために、「アリランと赤とんぼ」で同時に演奏されている「アリラン」と「赤とんぼ」のそれぞれの旋律の楽譜とベース進行を提示し、共通点を問う。最後に、表したいイメージにふさわしいデュアルメロディになっているかどうか吟味し、作品を仕上げる。ここでは、作品に込めた思いや意図をより明確にさせるために、表したいイメージと音楽を形づくっている要素との関わり視点でこだわったことを書き、作品に添えるよう指示する。

3 目標

- 表したい「永」の情景のイメージと音色、リズム、旋律、速度との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な五線譜の読譜や記譜の技能を身につけることができる。
- 音色、リズム、旋律、速度について知覚・感受の関わりを考え、表したい「永」の情景のイメージにふさわしい音楽をどのようにつくるかについて、思いや意図をもつことができる。
- 音色、リズム、旋律、速度の違いによる雰囲気の変化に関心をもち、「永」の情景のイメージを音楽で創作する活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

4 計 画 (7時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて (○)	評価の観点
一	2	<p>1 京都の郷土の音楽のよさを味わう。</p> <p>(1) 「祇園囃子」「福知山音頭」「宮津節」の音楽の特徴を知覚・感受する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和楽器（太鼓，笛，三味線，鉦）の音色のよさ ・コブシや地声的発声のよさ <p>(2) 日本の五音音階の特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の五音音階（都節音階，律音階）の特有の響き 	<p>○ 生徒それぞれの興味・関心に応じた順に音楽の特徴を知覚・感受させるために，タブレット端末から3曲の映像を自由に鑑賞できるように設定し，共通点や固有点を問う。</p> <p>○ 二つそれぞれの五音音階の特徴を言葉で表現させるために，同じ曲をそれぞれの五音音階を用いて編曲したものを演奏し，それぞれの曲想を表すのにふさわしい「音楽を表す言葉」を選択するよう促す。</p>	<p>態：京都の郷土の音楽に関心をもち，楽器や声の音色のよさを知覚・感受する活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>思：五音音階（都節音階，律音階）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，味わいながら聴いている。</p>
		<p>学習課題 「日本の五音音階の特徴を生かし，「永（とこしえ）」の情景を音楽で表現しよう。」</p>		
二	1	<p>2 表したい「永（とこしえ）」のイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいイメージ ・表したいイメージにふさわしい音色 	<p>○ 表したいイメージと意図や意図を具体的に関わらせるために，修学旅行中に訪れた場所の中で最も印象深かった所について，その理由を「音楽を表す言葉」を使って書くよう促す。</p>	<p>思：表したい「永（とこしえ）」のイメージを基に，どのように音楽をつくるかについて，音色の観点で意図や意図をもっている。</p>
三	3	<p>3 日本の五音音階と反復・変化・対照を使って，デュアルメロディをつくる。</p> <p>(1) 反復・変化・対照を使って単旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の反復・変化・対照 <p>(2) 美しく融合しているデュアルメロディの特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通の音階とベース進行 ・二つの旋律の融合 	<p>○ 反復・変化・対照を用いる必要性や用いたことによる音楽のまとまりを感じ取らせるために，〈コンフリクト〉の段階で，教師が提示した4コマ漫画のコマそれぞれに旋律をつけるとしたら反復・変化・対照のどれがふさわしいかを問う。</p> <p>○ 二つの旋律が同時に演奏されているにも関わらず，美しく融合している根拠を感じ取らせるために，〈内化1〉の段階で，「アリランと赤とんぼ」で同時に演奏されている「アリラン」と「赤とんぼ」のそれぞれの旋律の楽譜とベース進行を提示し，共通点を問う。</p>	<p>知：反復，変化，対照の構成上の特徴について理解している。</p> <p>思：「アリランと赤とんぼ」の曲想と二つの旋律の融合との関わりについて感じ取っている。</p>
	本時	<p>(3) デュアルメロディとして表したいイメージにふさわしく重なり合うように工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色，リズム，速度，旋律に関する新たな工夫 	<p>○ グループで協働しながら工夫を重ねさせるために，〈外化（内化2）〉の段階で，即時演奏機能を活用して，「二つの旋律が表したいイメージにふさわしく重なり合っているか」という観点で意見交流するよう促す。</p>	<p>知：二つの旋律が表したいイメージにふさわしく重なり合うよう試行錯誤しながら，五線譜で表現する技能を身に付け，五線譜で表している。</p>
四	1	<p>4 表したいイメージにふさわしいデュアルメロディになっているかどうか吟味し，作品を仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいイメージにふさわしい旋律の重なり合い 	<p>○ 作品に込めた意図や意図をより明確にさせるために，〈リフレクション〉の段階で，表したいイメージと音楽を形づくっている要素（旋律，音色，リズム，速度）との関わり方の視点で「こだわりポイント」として文章表現させ，作品に添えるよう指示する。</p>	<p>態：それぞれの作品のよさを味わう活動に楽しみながら取り組もうとしている。</p>

5 本 時 令和4年11月10日(木) 第4校時 計画 第三次の3 音楽室にて

(1) 主 眼

○ 音色, リズム, 速度, 旋律の観点でペアや小集団で作品交流する活動を通して, 二つの旋律が表したいイメージにふさわしく重なり合うような作品をつくることができる。

(2) 準 備

①例示作品 ②学びの軌跡シート ③学習シート ④音楽学習プラットフォーム

(3) 過 程 I…コンフリクト II…内化1 III…外化(内化2) IV…リフレクション

学習活動・内容	準備	段階	主な手だて(○)と評価(◇)	形態	配時
<p>1 工夫の観点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色, リズム, 速度, 旋律(音のつながり方, 五音音階) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 二つの旋律が表したいイメージにふさわしく重なり合うよう工夫しよう。</p> </div>	① ②	I	○ 旋律が重なり合うための条件を批判的思考で見いださせるために, 単旋律では違和感がなくても, 重ね合わせると違和感を覚えるような作品を例示し, 工夫の観点を基にその原因を問う。	一斉	10
<p>2 前時までにつくった二つの旋律にペアで意見交流をしながら付加修正を加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある旋律の条件 	③ ④	II	○ まとまりのある旋律に近付けさせるために, 前時までに生徒それぞれがつくった旋律について, コメント機能を活用して, 事前に教師が五線譜に書き込んでおいた形成的評価を参考にしながら付加修正を加えるよう促す。	ペア	15
<p>3 ペア同士で作品交流をし, 工夫を吟味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいイメージと二つの旋律の重なり合いとの関わり 		III	○ ペアで工夫する際の視点を焦点化させるために, 即時演奏機能を活用して, 「二つの旋律が表したいイメージにふさわしく重なり合っているか」について, 音色, リズム, 速度, 旋律の観点で作品交流するよう促す。	小集団	20
<p>4 本時の工夫点をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色, リズム, 速度, 旋律を観点とした新たな工夫 			○ それぞれが作品に込めた思いや意図をより具体化させるために, 「今日最も効果的だった工夫を二つ以上挙げ, その根拠は何か」と問い, コメント機能を活用して, 五線譜に直接書き込むよう指示する。 ◇ 表したいイメージを基に, 二つの旋律が美しく重なり合うような音楽を, 音色, リズム, 速度, 旋律の観点から二つ以上の観点で工夫し, 根拠をもって五線譜と言葉を関わらせて表すことができたか。 ＜学習シート, 作品分析＞	個	5